

特集「ACHEMA 2018」を企画して

特集担当編集委員 鈴木 道隆、谷 正美

2018年6月11日(月)～15日(金)にドイツ・フランクフルトの Messe Frankfurt で欧州最大の化学機械、機器展示見本市である ACHEMA (アヘマ) が開催された。ACHEMA はドイツ語の Ausstellung CHEMischer Apparate の略で化学装置の展示会という意味であり、3年に1度開催される。粉体関連機器の展示も多いために粉体技術者や粉体関連企業の関心も高く、今回は4つの分科会が訪問ツアーを企画して、現地でセッションや見学会を行った。そこで、ドイツまではなかなか行けないという読者の方々のために、ACHEMA に参加された方々に取材をお願いし、さまざまな視点からその様子や特徴、粉体機器の最新情報、それに関連したセッションや工場見学などについてご紹介いただく特集号を企画した。

当時、JSPS 特別研究員としてスイスに留学中で「粉体技術」編集委員でもある名古屋工業大学の高井千加氏には「ACHEMA 2018を取材して」と題して ACHEMA 全体の様子や印象、そして日本と欧州との交流について幅広く取材していただいた。

ACHEMA に合わせて当協会の4つの分科会がドイツで開催された。

株栗本鐵工所の藤田由季子氏には「微粒子ナノテクノロジー分科会報告」と題して IPNF 2018の報告の様子とドイツ連邦材料技術試験研究所ならびにポツダム大学訪問の様子を紹介いただいた。

月島機械株の津崎裕也氏と味の素株の金子雅哉氏には「晶析分科会報告」と題して晶析分科会の様子を紹介いただいた。

大川原化工機株の根本源太郎氏には「粒子加工技術分科会報告」と題して IPNF 2018の報告や世界有数の製薬会社である Novartis 社の見学会様子を紹介いただいた。

プロメテック・ソフトウェア株の山井三亀夫氏には「粉体シミュレーション技術利用分科会報告」と題して世界有数の化学会社である BASF 社で行われた講演会や工場見学の様子を紹介いただいた。

株日清製粉グループ本社の中村圭太郎氏と金沢大学の瀬戸章文氏には「ナノ粒子関連機器の展示」と題して、ナノ粒子合成技術や粉碎・分散技術、さらに積層技術や計測技術についての最新情報を紹介いただいた。

株大川原製作所の荒井貴之氏には「欧州の粉体関連機器の技術動向紹介」と題して、展示会場の概要や欧州の粉体関連装置の傾向について紹介いただいた。

吉原伊知郎技術士事務所の吉原伊知郎氏には「造粒、乾燥などの技術動向紹介」と題して会場の全体的な印象と36年の動向、セミナー、興味のある製品について紹介いただいた。

株栗本鐵工所の岡村成晃氏には「ACHEMA 2018への出展」と題して出展者の立場から見た会場全体の様子やブースでの対応について紹介いただいた。

株奈良機械製作所の高居孝弘氏には「設計の視点から見た製品に対する気付き」と題して装置の外観・仕上げ、安全への配慮、粉体の熱交換器に使える技術に加えて言葉の壁についても書いていただいた。

金沢大学の大学院生である玉館知也氏には「ナノ粒子テクノロジーの最先端」と題して展示会全体の様子や展示内容についての印象を紹介いただいた。

同志社大学の大学院生である石場徹氏には「ACHEMA 2018印象記」と題してポスター発表の経験や工場見学、ブース受付を担当した様子を紹介いただいた。

これら立場の違ういろいろな方々にさまざまな視点から ACHEMA 2018を紹介いただいた。この特集が、ACHEMA 2018に参加できなかった方々に展示会の様子や欧州の粉体技術の動向を知る機会になれば幸いである。